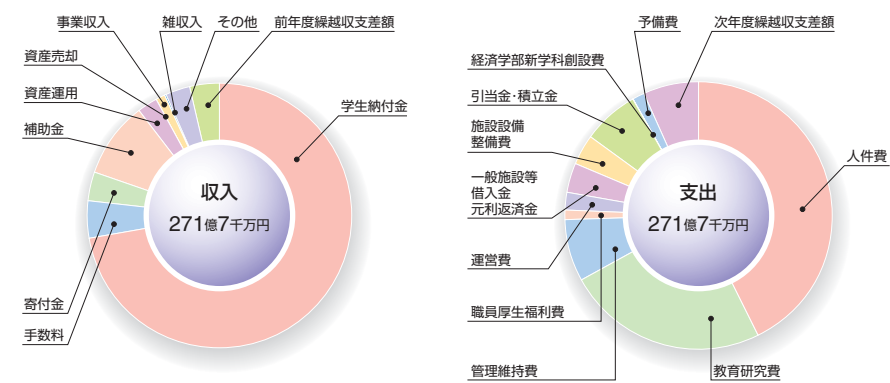


平成19年度 予算について

平成19年度においては平成21年の創立370周年を目前に、記念事業の募金を広く募ることとしています。支出においては5ヶ年計画の3年目にあたるアフガニスタン新仏教遺跡調査にかかる費用の予算化をおこなっています。また、学習支援の一環であるWEBサービスの充実を行なうため、情報教育に関する費用を平成18年度に引き続き予算化しています。施設等においては、深草学舎において平成18年度に引き続き1号館・2号館教室の音響状態の向上を図る工事を行ない、大宮学舎においては情報処理実習室の増設を行ないます。瀬田学舎においては学習環境の改善に向け5号館の教室を整備するとともに、課外活動においては瀬田学舎野球場、艇庫の改修等を行なうことを予定しています。また、経営学部・法学部の創設40周年事業や矯正・保護課程の30周年事業も予定しており、予算措置を講じています。

これらを含め、平成19年度は総額271億7千万円あまりの予算総額となります。

平成19年度 事業目的別予算総括表



■収入の部

科目	予算額
学生納付金収入	19,629,527
手数料収入	1,234,273
寄付金収入	958,330
補助金収入	2,521,631
資産運用収入	668,343
資産売却収入	1
事業収入	308,728
雑収入	50,121
その他の収入	814,784
前年度繰越収支差額	986,878
合計	27,172,616

■支出の部

科目	予算額
人件費支出	11,589,482
教育研究費支出	6,614,425
管理維持費支出	2,038,902
職員厚生福利費支出	312,955
運営費支出	578,786
一般施設等借入金元利返済金支出	968,113
施設設備整備費支出	997,645
引当金・積立金支出	1,846,000
経済学部新学科創設費	3,000
予備費	400,000
次年度繰越収支差額	1,823,308
合計	27,172,616

上記の事業目的別予算は、龍谷大学独自の予算システムです。これは、私立学校の会計方法である学校法人会計基準で定められたシステムでは分かりにくい、各事業における予算・決算状況を分かりやすく表示しているもので、本学では昭和57年度から導入しています。また、学校法人会計基準では決算時において「資金収支計算書」「消費収支計算書」などの計算書類の作成が義務付けられており、これに対応する予算として「資金収支予算」と「消費収支予算」があります。「資金収支予算」は、当該年度に本学に入金するお金の流れを示すもので、企業会計においては、「キャッシュフロー計算書」に近いものです。「消費収支予算」は当該年度に消費することの出来る支出とそれに対応する収入（自己資金）を示しており、企業会計における「損益計算書」に近いものです。これらに基づく予算は右記の通りです。

平成19年度 資金収支予算

科目	予算額
学生納付金収入	19,629,527
手数料収入	1,234,273
寄付金収入	958,330
補助金収入	2,521,631
資産運用収入	668,343
資産売却収入	1
事業収入	308,728
雑収入	50,121
前受金収入	2,831,911
その他の収入	1,149,187
資金収入調整勘定	△ 2,819,367
前年度繰越支払資金	6,188,492
合計	32,721,177

■支出の部

科目	予算額
人件費支出	11,825,009
教育研究費支出	6,555,417
管理経費支出	1,278,752
借入金等利息支出	186,043
借入金等返済支出	782,070
施設関係支出	1,133,109
設備関係支出	1,087,102
資産運用支出	1,851,147
その他の支出	396,682
【予備費】	400,000
資金支出調整勘定	△ 163,312
次年度繰越支払資金	7,389,158
合計	32,721,177

平成19年度 消費収支予算

科目	予算額
学生納付金	19,629,527
手数料	1,234,273
寄付金	968,330
補助金	2,521,631
資産運用収入	668,343
資産売却差額	1
事業収入	308,728
雑収入	50,121
帰属収入合計	25,380,954
基本金組入額合計	△ 3,268,741
消費収入の部合計	22,112,213

■消費支出の部

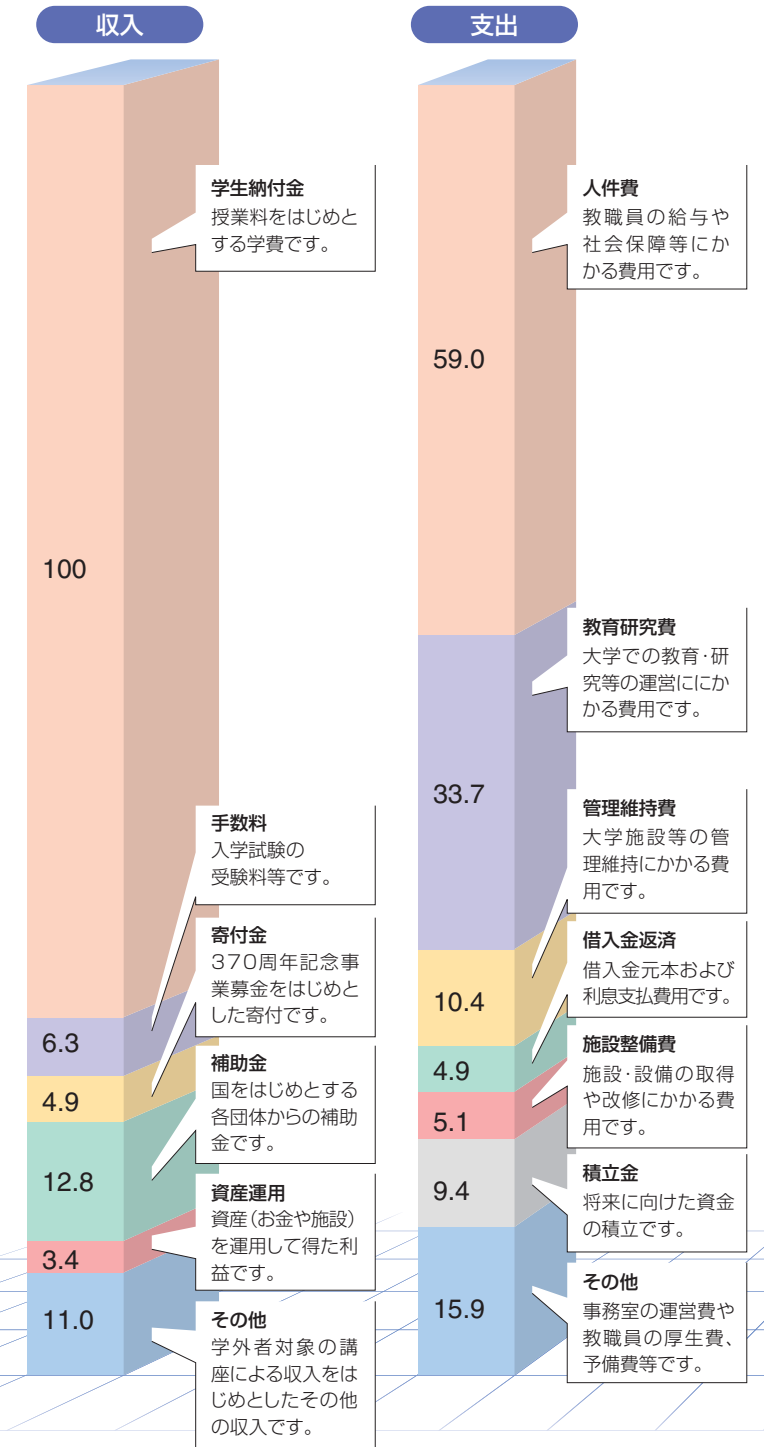
科目	予算額
人件費	11,767,749
教育研究経費	8,804,705
管理経費	1,355,993
借入金等利息	186,043
資産処分差額	46,003
徴収不能引当金繰入額	2,496
【予備費】	400,000
消費支出の部合計	22,562,989
当年度消費支出超過額	450,776
前年度繰越消費収入超過額	3,518,823
翌年度繰越消費収入超過額	3,068,047

これは、平成19年度事業目的別予算を分かりやすくご理解いただくために、皆さんに納めていただいている学生納付金を100とした場合の、収入や支出の状況をグラフ化したものです。

収入の大部分は学生納付金(学費等)です。その他、受験料、寄付金、補助金が大きな収入項目ですが、学生納付金と比較するとそれほど多額でないことがわかります。これは、私立大学に共通した財政構造であり、少子化に伴う18歳人口の低下といった社会情勢の変化に応じ、学生納付金以外の収入の拡大が今後ますます重要になってきます。その中で収入拡大の一つの手段となる資産運用については、安全を第一に有効な運用で収入の増加に向け取り組んでいます。

支出は人件費および教育研究費が半分以上となっています。教育機関においては、その知的資源である人件費の比重が高くなりますが、本学においても例外ではありません。借入金については、過去に借り入れた借金の返済および利息の支払いを行なっています。第4次長期計画(平成12年から平成21年まで)期間においては新たな借入を行なわない方針で大学財政を運営しています。また、将来における校舎の老朽化や新たな資産取得に対応できるよう、積立金として資金を積み立てています。

このように、皆さんの学生納付金は本学財政の大部分を占めています。この学生納付金を無駄にすることなく、有効に活用していくとともに、学生納付金以外の収入を拡大することにより、より一層健全で安定した財政運営を行なうよう努めてまいります。



経 理 TOPIC

野球を見ていると、京セラドーム(旧大阪ドーム)の看板に龍谷大学の広告が目に入ります。この費用はどこから出ているのですか？

龍谷大学の事業目的別予算においては、広告にかかる費用を教育研究費から(学校法人会計基準に基づく予算においては、管理経費から)支出しています。この京セラドームの広告については、龍谷大学と親和会(保護者会)が共同で出しているもので、龍谷大学負担分については、上記の通り教育研究費に含まれています。